

# 2022年度 法科大学院

## 第5期入学試験問題

### 4時限

## 民事訴訟法・刑事訴訟法

### (論文式)

## 試験時間合計 80分

#### 注意事項

1. 試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。
2. この問題冊子の1ページから問題が掲載されています。
3. 試験時間中に問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁及び解答用紙の汚れ等に気付いた場合は手を挙げて監督に知らせてください。
4. 解答用紙には解答欄以外に記入欄がありますので、監督の指示に従ってそれぞれ正しく記入してください。
5. 解答は、必ず解答用紙の解答欄に記入してください。解答用紙の解答欄以外に記入された解答はすべて無効とします。解答用紙の裏面を使用する場合は「裏面に続く」と記載してください。
6. 解答用紙は各1枚しか配布しません。複数枚請求されてもお渡ししません。
7. 貸与した六法以外の参照は一切できません。
8. 試験問題の内容等について質問することはできません。
9. 問題冊子の余白等は適宜使用してかまいませんが、解答用紙の解答欄以外に記入された解答は無効とします。
10. 試験終了後、問題冊子は持ち帰ってください。

## [民事訴訟法]

Yは、Zを介して、Aの生前に、Aが所有する土地（以下「本件土地」という。）を買い受け、所有権移転登記を経由した。これに対し、Aの唯一の相続人Xは、Aにより代理権を授与されないのにZがAの代理人を称して売却したとして、Yを被告とする所有権移転登記抹消請求訴訟を提起した（以下「前訴」という。）。Xは、Zに対する損害賠償請求権を保全するため、Zに訴訟告知をしたが、Zは、代理権の存在を確信していたため、Y側に補助参加した。裁判所は、Zの代理権の存在は認定できないが、少なくとも表見代理の成立が認められるとして、請求棄却判決を言い渡し、この判決が確定した。

そこで、Xは、Zの無権代理行為によって本件土地の所有権を喪失したとして、Zを被告とする損害賠償請求訴訟を提起した（以下「後訴」という。）。

後訴において、Zは、代理権の存在を主張することができるか。

以 上

## [刑事訴訟法]

令和3年11月26日午後10時ころ、H市にあるT公園においてVがナイフで胸部を刺されて殺害される事件が発生し、犯人はその場から逃走した。

Wは、散歩中に上記犯行を目撃し、直ちに携帯電話で110番通報した。通報により駆けつけた警察官Pは、Wから、犯人が身長約180センチメートル、やせ型、20歳くらい、上下とも黒色の着衣、短髪で、右のほおに大きなあざがある男であること、およびT公園から北東方向に逃走したことを聞いた。警察官Pがこの目撃情報に基づいて犯人を探した結果、同日午後10時30分ころ、犯行現場から直線距離で約2キロメートル離れた路上において、Wから聴取していた犯人の特徴と合致するXを発見した。警察官Pが、職務質問のため停止するよう求めたところ、Xが逃げ出したので、約300メートル追跡して追い付き、「待ってください。」と言いながらXの右肩に手を掛けたところ、Xは停止した。その際、警察官Pは、Xの上下の着衣および靴に一見して血とわかる赤い液体が付着していることに気がついた。そこで、警察官Pが、Xに対し、「なぜ着衣と靴に血がついているのですか。」と質問したところ、Xは犯行を認めた。警察官Pは、XをVに対する殺人罪で逮捕した。なお、Vの殺害に使用されたナイフは、Vの胸部に刺さった状態で発見された。

この逮捕は適法か。下記の〔 〕内の用語をすべて使用して説明しなさい。なお、関係する憲法、刑事訴訟法の規定を必ず摘示しなさい。

[令状、現行犯人、逮捕者、明白、準現行犯人]